

# SU-122 RUSSIAN TANK DESTROYER

1/35 MILITARY MINIATURE SERIES

NO.93

ソビエト・SU-122襲撃砲戦車



ソ連軍の自走砲（自走砲架）の歴史は、第1次5ヶ年計画の終りに近い1931～2年頃から始まりました。ソ連は、この最初の長期計画の中で、まずトラクターと戦車を中心とした戦闘車輛を生産できる工場の建設に重点をおき、モスクワ西方のゴリキエーやウクライナのハリコフおよびスターリングラードに巨大な生産設備を持った工場群を続々と建設したのです。一方、製鉄、製鋼工場でもようやく生産が上り始めると、それに伴ってソ連軍火砲の主役となるべき76.2mm、122mmおよび152mm榴弾砲が、有能な技術者であり、軍人でもあったF・F・ピエトロフによって次々と設計されていきました。

戦車部隊の支援を目的とした自走砲として最初に開発されたのは、当時、生産が開始されはじめたT-26戦車のシャーシを流用して76.2mm砲を搭載したSU-5自走砲でした。この構想は、その後、大型戦車T-28のシャーシに152mm砲を積んだSU-6や多砲塔戦車として有名なT-100試作戦車に130mm砲を載せたSU-100Yに発展し、最後には自走砲ではありませんが、KV-I重戦車のシャーシを利用して152mm砲を備える大型砲塔を搭載したKV-IIまで続くことになるのです。これをみても、ソ連がいかに火力を重視したかが理解できるでしょう。この大口徑砲搭載の思想は、現在でも変えることなく、ソ連軍戦闘車輛に見られる大きな特徴となっています。

1941年6月22日、ソ連は突如として近代戦にまき込まれ、ドイツ軍得意の電撃戦の洗礼を受けることとなります。ソ連軍の統一を欠いた作戦指導と訓練不足の結果、戦車部隊は鉄則である集中使用を忘れられ、分断されて各個撃破されたのです。しかし、大兵力を犠牲にして、ハリコフ、ドニエプトロフスクなどウクライナ地方の戦車工場

をウクライナ東方のいわゆるタンク・コンビナートに移転し、そこで戦車の生産が再開されると、一時は生産をやめていた自走砲の構想が、急速に具体化されることになったのです。1942年10月、タンク・コンビナートの1つであるウラル機械工場は、スタフカ（ソ連軍統帥部）から、1ヶ月以内に122mm榴弾砲搭載の自走砲を試作せよとのノルマを与えられました。ようやくフル操業に入ったばかりのこの工場は、何としても軍の要求に応えなければなりません。ただちにゴルリッキエーとコーチン技師を指導者とした特別設計班が組織され、若いE・W・シルニシコフ技師が中心となって設計に心血をそそぐことになるのです。昼夜の別なく技師達は活動し、何種類ものデザインが描かれ、図面が引られました。こうして、ほぼ1ヶ月後、ドイツのIII号突撃砲に強い影響を受けた試作車が完成し、新当の中でテストを受けるのです。そして、早くも翌年1月には第1次生産型が戦線に送られたのです。当時の戦況は、ソ連軍がドイツ第6軍をスターリングラード（現在のボルゴグラード）で完全に包囲し、マンシュタイン將軍に率いられたドイツ救援軍が何とか第6軍を救出しようとして、第2次大戦屈指の大激戦を吹雪の中で展開していた時でした。こうした激戦の中で誕生し、戦いの中で成長したソ連軍初の本格的な自走砲がSU-122なのです。

SUとは、ロシア語のCYでサムホードネア・ウスタノーフカ（自走砲または自走砲架の意味）の頭文字をとったもので、122は主砲の口径が122mmであることを表わしています。SU-122の構造は、手本としたドイツ軍III号突撃砲とほとんど同じと言えますが、形態的にはSU-122の方が強力かつ優れているばかりでなく生産もしやすかったと言われていました。戦闘室内部は

主砲装填部の左側に砲手が座り、反対側には車長の席があって、車長は無線用レシーバーをつけ、回転式ペリスコープで外部を見ることができました。その後方は、砲弾と薬のうに分れた弾薬を装填する兵士2名（1名の場合もあった）が座り、また砲手の前方には操縦手が席を占めていました。主砲の122mm榴弾砲M-30Sは、1938年に設計された23口径の榴弾砲を戦車搭載用に改良したもので、初速515m/秒、射程11,800m、1分間の射撃速度は5～6発となっています。射角は左右にそれぞれ10度、水平から上方に25度、下方に3度でした。また副武装としては7.62mm機関銃を車内に携行し、ピストルポートから射撃するようになっていました。シャーシは同時期のT34/76

T-34/76 1942年型



と同一のため、車体の装甲も変わらず、重量も偶然にも30.5トンと同じになっています。SU-122の意義は、ソ連軍の戦局挽回に伴って、機動性のある火器の必要性に応じて造られたソ連版の突撃砲といふところにあると言えるでしょう。そして、さらにこの車体は基本的に変えることなく、長口径85mm砲から100mm砲へと主砲の威力を増強し、第2次大戦で有用な兵器としての地位を築いた駆逐戦車の成功例として、最終的にはドイツ軍のヤークトパンサーと共に最もすぐれた戦闘車輛の1つに数えられるSU-85やSU-100にまで発展する母体となったところにあると言えるでしょう。

# PARTS

組み立てる前に部品の形と番号をたしかめて下さい。

## A 部品

- 丸形タンク B
- 丸形タンク A
- 後部吸入口 右
- 後部吸入口 左
- 不要部品
- 不要部品
- リヤパネル
- 工具箱 A
- 工具箱 B
- エキゾーストパイプ
- 車体後部カバー
- 不要部品
- 牽引フック A
- 不要部品
- 丸形タンクカバー
- エキゾーストカバー
- アンテナマウント
- 不要部品
- 不要部品
- 補助キャタピラ A
- フロントアジャスト部品
- 不要部品
- 不要部品
- 不要部品
24. ライト
- ファイナルカバー
- 不要部品
- 不要部品
- 補助キャタピラ B
- 不要部品
- 不要部品
- ワイヤーロープ
31. 不要部品

## B 部品

- ロードホイールキャップ
- ドライブスプロケットキャップ
- 車体止め部品
- アイトラーホイールキャップ
- 不要部品

## C 部品

- ロードホイール A
- ロードホイール B
- アイトラーホイール A
- ドライブスプロケット A
- ドライブスプロケット B
- アイトラーホイール B

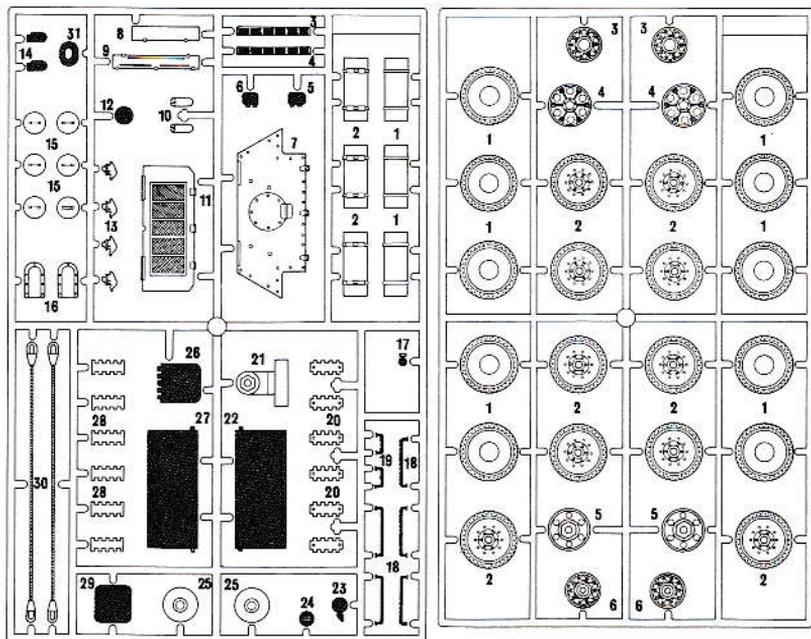
## D 部品

- ベリスコープ
- ドライバーズハッチ A
- クリーニングロッド
- ツールステア
5. 眼視孔
- ホーン
- フロントプレート
- ドライバーズハッチ B
- タンクステア
10. 上部部品
- リヤパネル
12. ピistolポート A
13. ピistolポート B
14. トッププレート
15. 人形胴体
16. 人形下半身
17. 人形左腕
18. 人形右腕
19. ドライバーベリスコープ

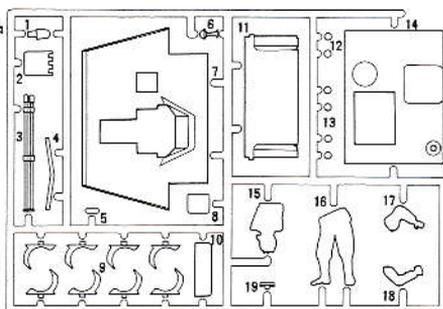
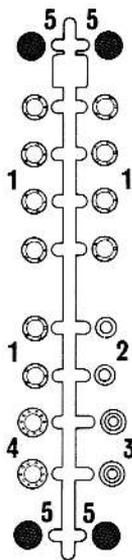
## E 部品

- ガンシールド A
- ガンシールド B
- キャンドラム
- ガンシールドフック
- ガンシールドC左
- ガンシールドC右
- ガンバレル A
- ガンバレル B
- ガンシールドD
- ガンバレルストッパー
- 丸型タンク A
- 丸型タンク B
- 人形台
14. シャベル
- ベリスコープ
- ベリスコープカバー
- ヘッドライト A
18. 丸型タンク C
- コマンドーズハッチ
- ハンドレール A
21. ハンドレール B
22. ハンドレール C

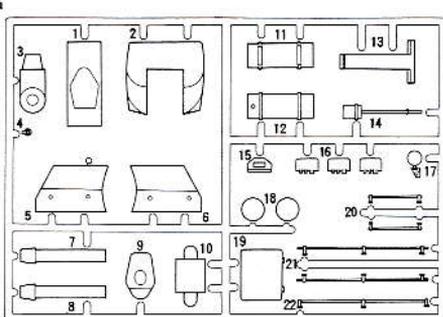
**A** 部品 5、6、12、14、18、19、22  
**C** 部品 23、26、27、29、31は不要部品です。



**B** 部品 **D** 部品

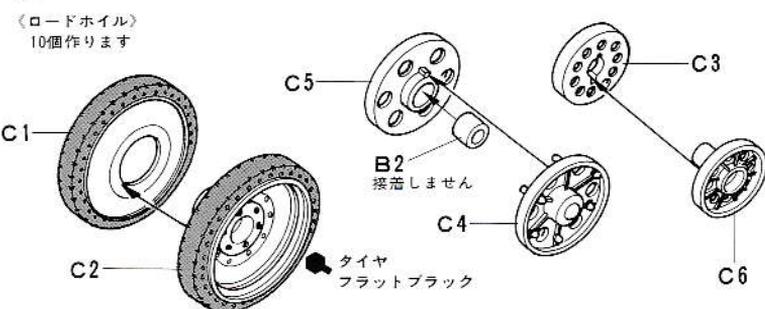


**E** 部品



B 5 は不要部品です

**1** ホイールのくみため (ロードホイール) 10個作ります (ドライブスプロケット) 2個作ります (アイトラーホイール) 2個作ります



作る前に—  
お読みください。

★組み立てる前に説明図をよく読み、部品の形や取り付け位置などをよく確かめてから接着しましょう。

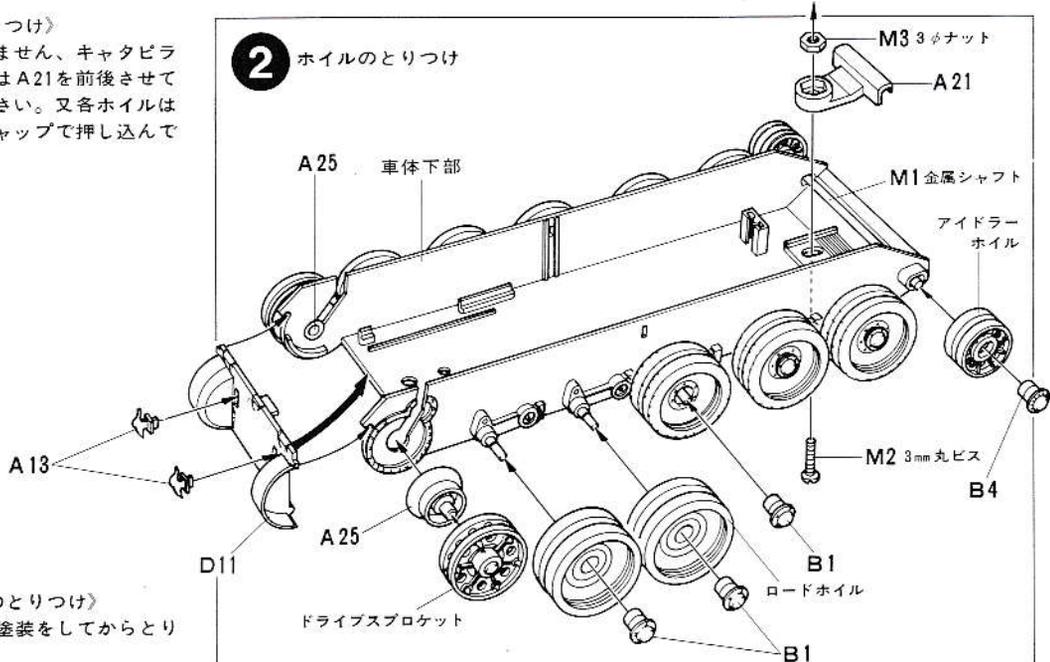
★ナイフ、接着剤、ドライバー、ピンセット、ヤスリ等を用意して下さい。これは塗装指示のマークです。全体の塗装はP 6にあります。

各部の塗装はタミヤカラーで指示してあります。

**2** 《ホイールのとりつけ》

A21は接着しません、キャタピラの調節をするときはA21を前後させてはり調節をして下さい。又各ホイールは接着せずにポリキャップで押し込んで下さい。

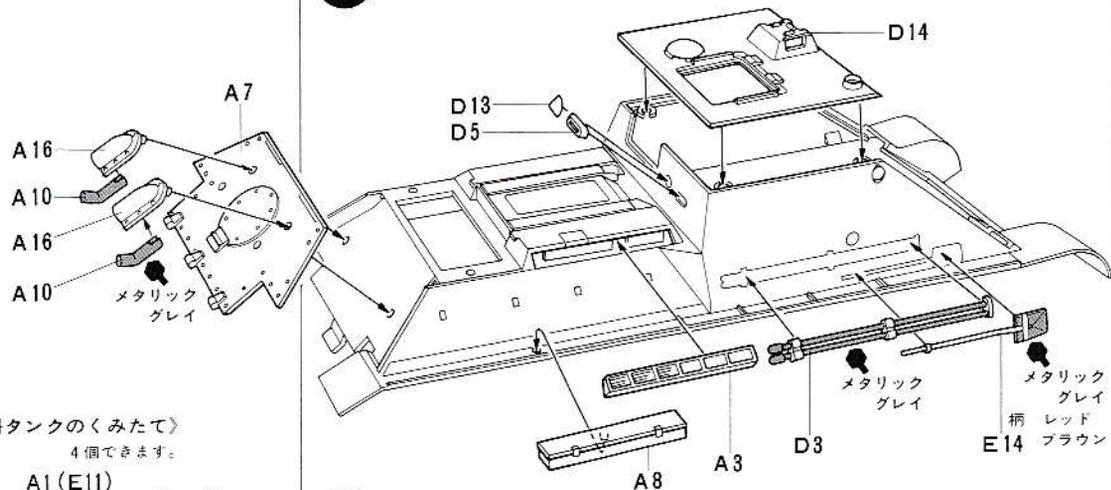
**2** ホイールのとりつけ



**3** 《リヤパネルのとりつけ》

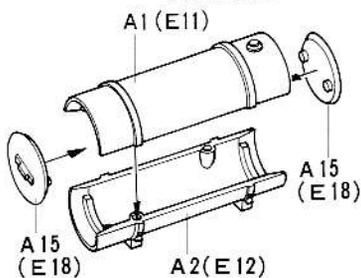
D3とE14は塗装をしてからとりつけて下さい。

**3** リヤパネルのとりつけ

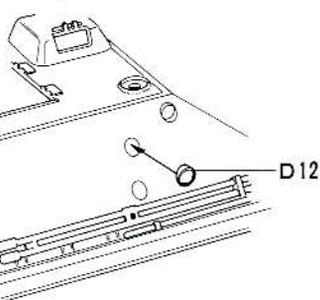


《丸型燃料タンクのくみため》

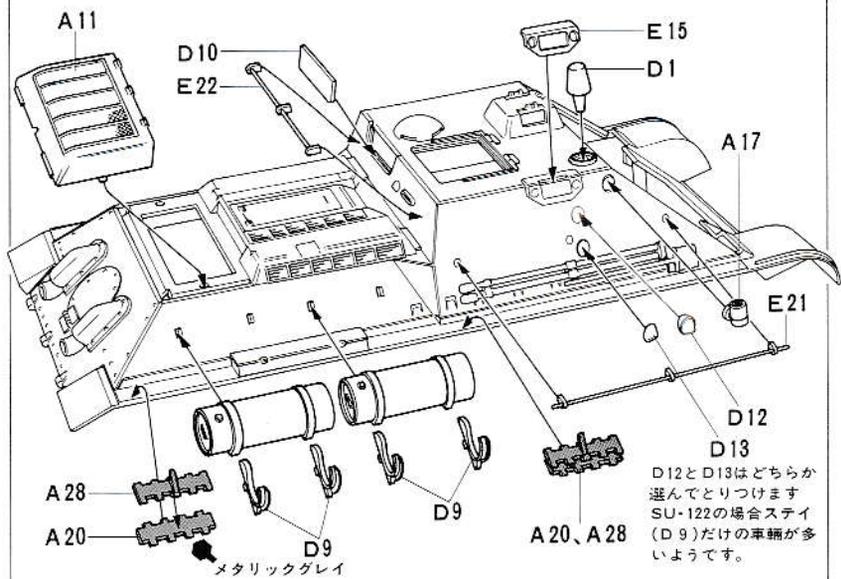
4個できます。



★D12のとりつけは下図の場所にとりつけて下さい。

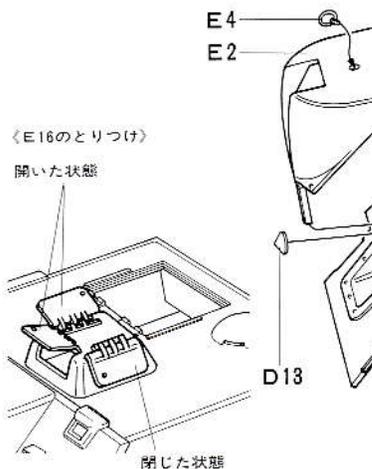


**4** 車体上部のくみためA

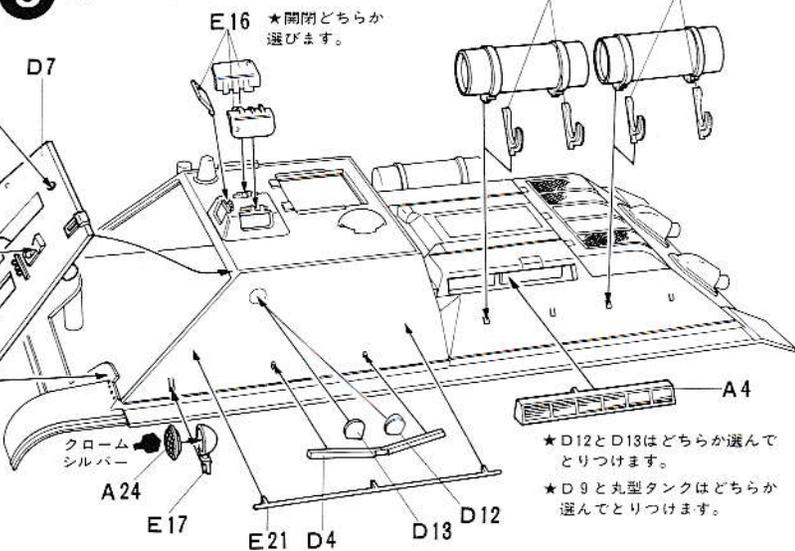


D12とD13はどちらか選んでとりつけますSU-122の場合ステイ(D9)だけの車輛が多いようです。

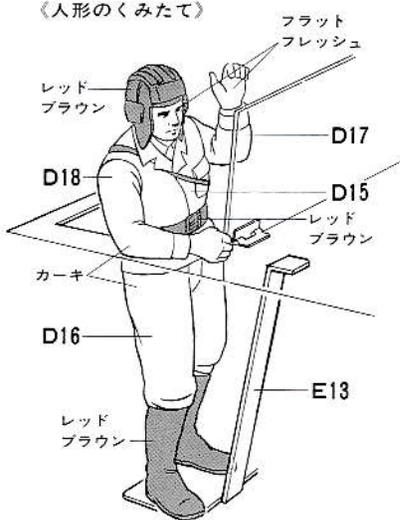
**5** 《車体上部のくみためB》



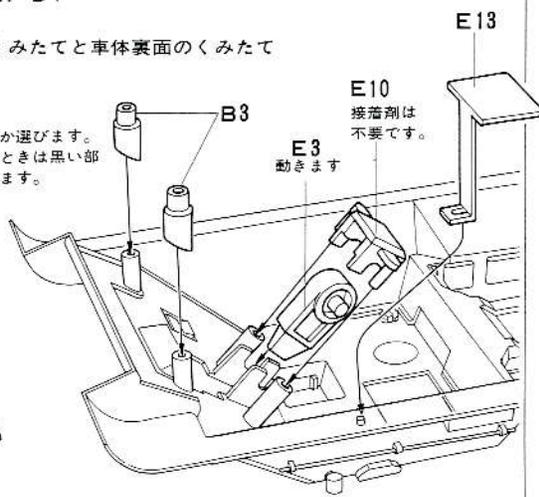
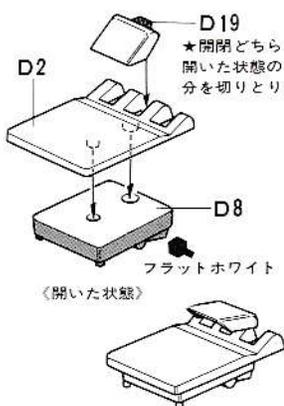
**5** 車体上部のくみためB



《人形のくみため》



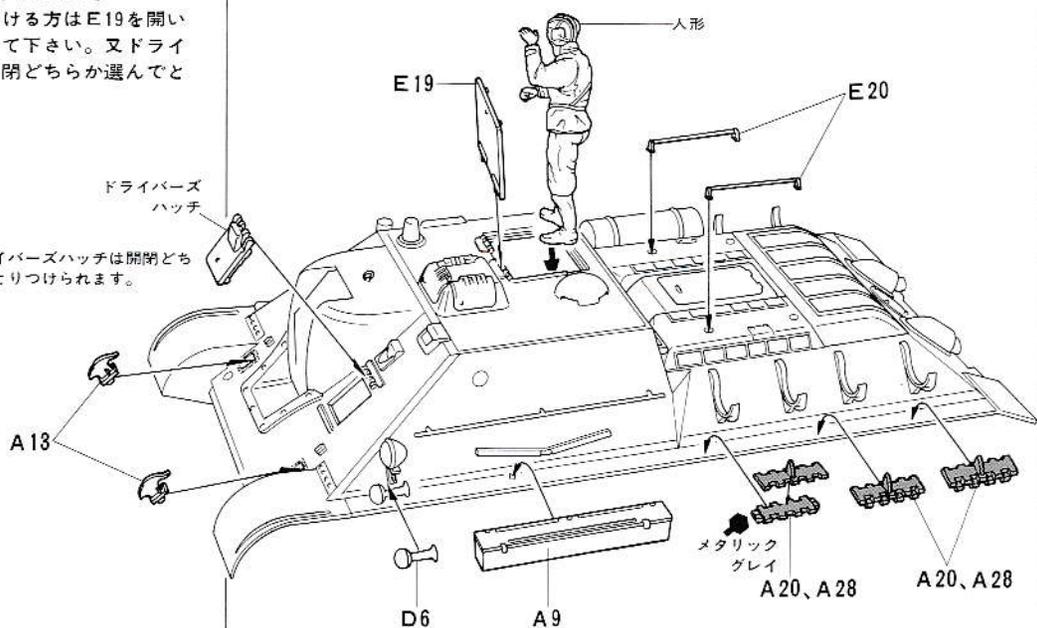
**6** ドライバーズハッチのくみためと車体裏面のくみため



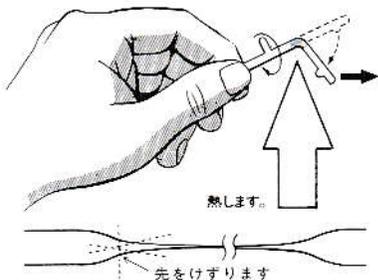
**7** 車体上部のくみためC

**7** 《車体上部のくみためC》

人形をとりつける方はE19を開いた状態でとつけて下さい。又ドライバーズハッチも開閉どちらか選んでとつけます。

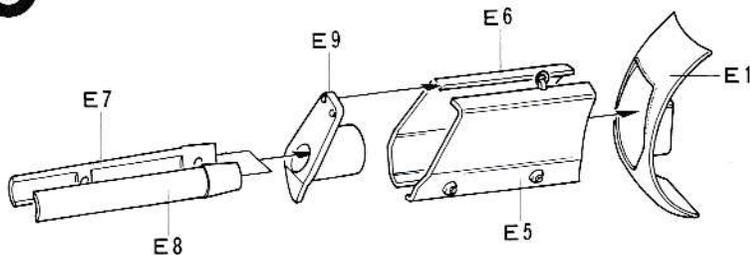


《アンテナの工作》

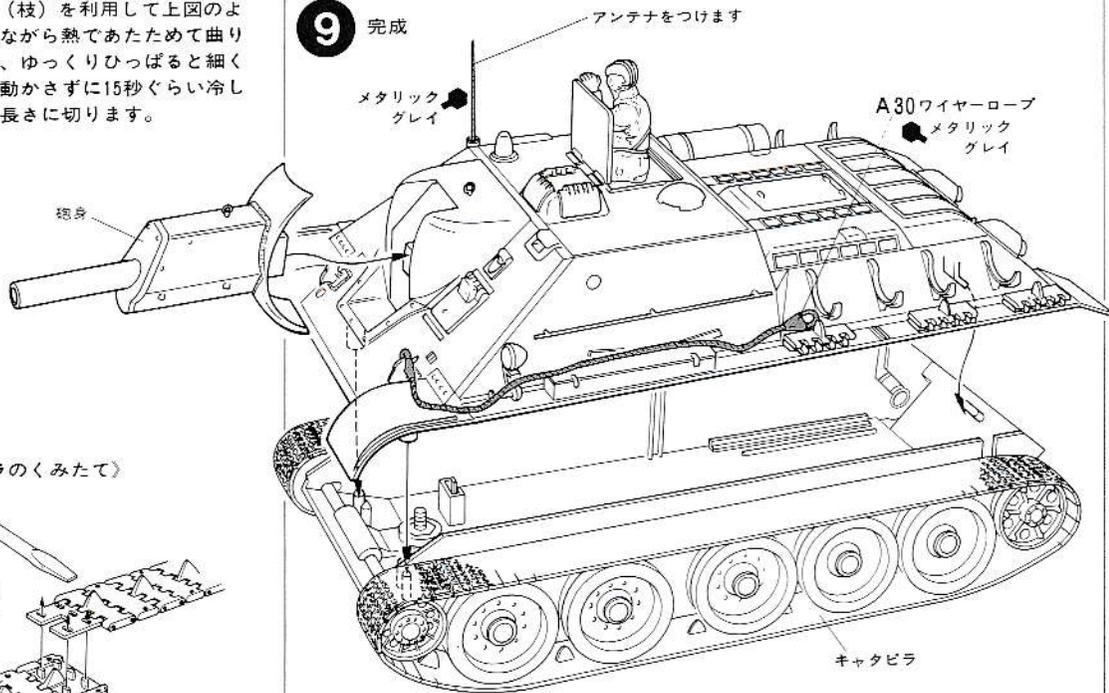


★ランナー（枝）を利用して上図のようにまわしながら熱であたためて曲りはじめたら、ゆっくりひっぱると細くなります。動かさずに15秒ぐらい冷したら6cmの長さに切ります。

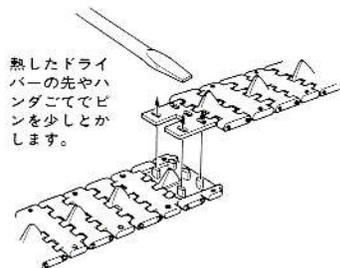
8 砲身のくみたて



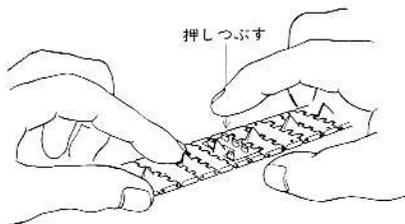
9 完成



《キャタピラのくみたて》



★すぐに指でピンを押しつぶしキャタピラを連結させます。



★キャタピラが切れたり焼止めが弱かった場合には図の様に、黒糸かホッチキスで補強して下さい。

《A30、ワイヤーロープのとりつけ》

★ワイヤーロープは、完成写真を参考にしめてとりつけて下さい。とりつけ位置をきめたのちに、少しずつ熱であたためながら自由に曲げてとりつけて下さい。

★アンテナやキャタピラ、ワイヤーのまげは熱を使用します。注意して作業して下さい。



# PAINTING



# APPLYING DECALS

## 〈SU-122の塗装〉

ソ連戦車の標準塗装は全面吹付け塗装によるダークグリーンの一色です。SU-122もその例にもれずダークグリーン一色で塗られていました。迷彩塗装はほとんど見られませんが、SU-122が多く使用されたのはクルスク戦と思われ、敵の戦いであったため、他の車輛と同じように、フラットホワイトの水性塗料がオーバースプレーされたと考えてもよいでしょう。

## 〈使用する塗料〉

タミヤからは手軽に使えるスプレー式のタミヤカラーと筆塗りのエナメル系、アクリル系タミヤカラーが発売されています。色の正確なタミヤのカラーをお使い下さい。

★各塗装指示はタミヤのカラーで指示してあります。

- フラットブラック……………XF-1
- メタリックグレイ……………XF-56
- ダークグリーン……………XF-61
- クロームシルバー……………X-11

## 〈SU-122のマーキング〉

SU-122にかかれたナンバーは、その所属大隊、中隊、と車番をあらわします。最高位にかかれた数字は敵を恐れさす目的でつけられたと思われる、1つの大隊中に数百台もの車輛があるようにさっかくさせるためのものです。又SU-122はクルクス戦でもにも使用され、その季節から冬期迷彩がされていたと思われます。マークはダークグリーンの子体色のとき白数字を、フラットホワイトのとき黒数字を使って下さい。

万一不良部品、不足部品などありました場合には、当社アフターサービス係までご連絡下さい。

〒422 静岡市恩田原3-7  
田宮模型アフターサービス係  
☎ 054 (283) 0003

## TAMIYA COLOUR

タミヤカラー(スプレー式)

美しい塗装が手軽に楽しめるスプレータイプの塗料です。ミリタリーモデル用、カーモデル用、一般工作用がそろっています。

## TAMIYA CEMENT 40ml

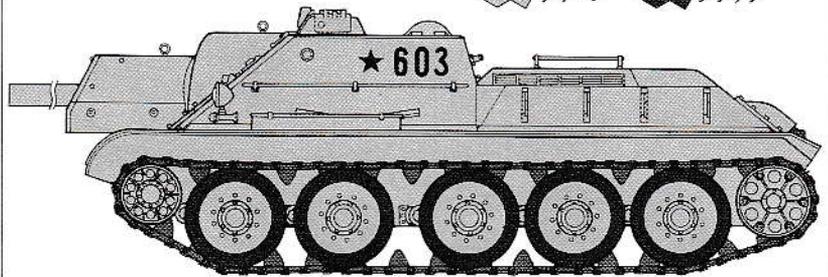
タミヤセメント(ピン入り)

プラスチックモデル用液体接着剤。安定性のいい使い易い四角いピン入り、容量もお徳用です。

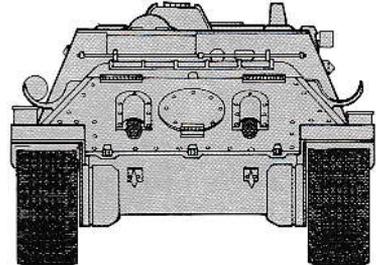
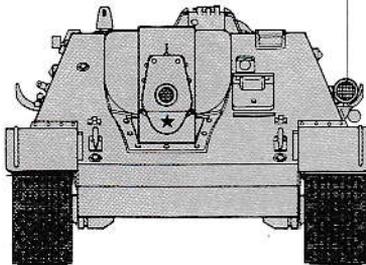


静岡市恩田原3-7 〒422

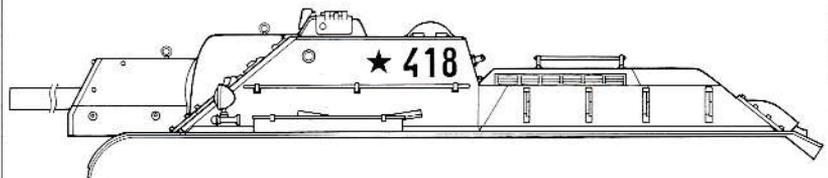
## 〈SU-122の塗装〉



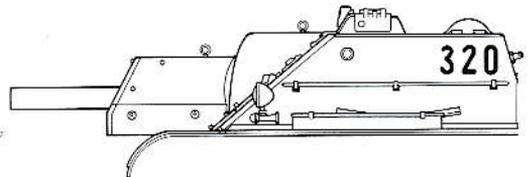
クロームシルバー



## 〈SU-122のマーキング〉



★星のマークは搭乗員が自由につけたと思われます。



最高位の3はダミーと思われます。  
第4砲兵中隊所属車

## 〈SU-122の冬期迷彩〉

